



九条の樹

東久留米「九条の会」ニュース 第32号

2011年3月発行・東久留米「九条の会」
代表者 古田足日・連絡先 鈴木 Tel. 042-473-9489
<http://members2.jcom.home.ne.jp/hgsk9jk/>

日本国憲法9条を守り、活かす 東久留米「九条の会」

私の主張

宗教者と

平和活動

東久留米キリスト者九条の会
松岩一成

私はキリスト者九条の会に籍を置くカトリックの信者です。

そもそも1981年、教皇ヨハネ・パウロ2世は広島の中で「戦争は人間の仕業です。戦争は人間の生命の破壊であり、死です。」と訴えられました。

この平和アピールに込めて、日本の司教団は広島に原爆が投下された8月6日から太平洋戦争敗戦に至る15日までの10日間を平和旬間と定め、平和への祈り、平和への学び、行動する期

間として取り組みました。これを受け東京教区平和旬間委員会は2010年のテーマを「非暴力による平和」とし、「平和を願うミサ」や「平和巡礼ウォーク」に取り組みました。私も「平和巡礼ウォーク」に参加し、中央線四谷駅から東京カテドラルまで歩き、大司教から平和を願うミサを受けました。

また、昭和45年以来、毎年開催されている「世界宗教者平和会議」は昨年、京都で開催され7カ国400人が参加しました。イスラム教参加者も多く参加し「イスラム教は非暴力と平和の宗教」と訴えました。会議の冒頭、浄土真宗の大谷門主は「紛争が紛争を呼び起こさないよう、各宗教者が知恵を絞る必要がある。」と訴えました。このようにキリスト教、仏教、イスラム教が連携し、平和への模索を続けています。

日本における、このような宗教者の平和活動は全国にありますが、どちらかと言えば関西地域が活発なようです。「大阪宗教者憲法のつどい」では2005年の発足時には大阪城野外音楽堂に3000人が参加しています。アピールのための「御堂筋からなんば」へのパレードなども行っています。残念ながら東京では主だった動きはないようですが、築地本願寺では平和活動の一環として、原爆写真展を実施したり、地域のカトリック教会と平和活動の情報交換などしています。

時間はかかるでしょうが、各領域の人々が平和活動の大きな輪となって連携していく必要を感じています。



今年もあつぱるにほあつ

東久留米九条の会新年交流会開かれる

1月22日開かれた新年交流会には、市内各九条の会や、教科書を考える会など26名が参加しました。「未来を開く歴史」講座の塚田勲さんのミニ学習会『憲法と安保』をお話していただきました。短い時間に日本の明治以来の戦争の歩み、幸徳秋水、石川啄木らの反戦思想にも触れる内容でした。そのあとお茶を飲みながら参加者が平和運動や日頃の思いを語り合い「きびしい面もあるが元気を出してがんばろう」という気持ちになりました。(鈴木)



新年交流会（スペース105にて）

歴史に学ぶ

「未来をひらく歴史」事務局
秋葉 泰子

2006年5月にスタートした東アジアの近現代史を学ぶ連続講座「未来をひらく歴史」は、まもなく丸5年を迎えようとしています。講座回数は今年に入り50回を超えました。

講師の塚田勲先生の並々ならぬ情熱と魅力にひかれ、今では毎回50人〜60人の方が参加して

います。

「西洋は文明、アジアは半開」と書き「朝鮮はアジアの中で一番の野蛮国、付き合ってもしょうがない国」と言ったのは、今でも1万円札に使われている明治の知識人福沢諭吉です。日清戦争がおけると、これは文明（日本）と野蛮（中国）の戦いとも言いました。このように日清戦争が始まる50年の日本の侵略・植民地支配の歴史は、古代以来長い友好と交流の歴史を持つてきた中国や朝鮮に対する差別意識を徹底的に国民に植え付けることによって進められてきました。

1923年に起きた関東大震災ではデマにより、軍隊、警察や住民が作った自警団によって多くの朝鮮人（約6千人）や数百人の中国人が虐殺されました。「アジアの平和のため」などと言いながら、台湾や朝鮮半島を植民地にし、中国の領土に勝手に満州国を建国し、何の罪も

ない多くのアジアの人々にどれほどの苦しみを与えてきたことでしょう。

国民の多くが中国や朝鮮を蔑視していた時代に、自然や芸術を通して、朝鮮人をこよなく愛した浅川巧や柳宗悦などを知ったのもこの講座です。中国や朝鮮の人々はこのような日本人を今でもとても尊敬し大切にしているそうです。

ドイツやイタリアのように、加害国に対する戦後処理が、未だにきちんと為されていない日本。中国や朝鮮半島の人々の胸の内にはその怒りや悲しみが未だにくすぶり続けているのではないのでしょうか。中国や北朝鮮の脅威をいうなら、非武装・非戦の憲法九条を名実ともに守ることが一番の抑止力だと、この講座で学んできて私は確信を深めています。まだこの講座に参加された事のない方、ぜひ一度塚田節を聞きにいらしてください。

南部九条の会

『白旗の少女琉子』 上映会開催される

南部九条の会の我らが仲間、出崎哲監督が制作したアニメーション映画『白旗の少女琉子』の上映会を、2月5日(土)に行った。



教育委員会が、各小・中学校

にチラシを配布してくれ、私たちは幼稚園、保育園、協力してくれそうな団体への呼びかけなど、思いつくことは全てやった。しかし時期が悪く、さまざまな行事と重なって、当日は186人の観客だった。

少ない観客だったが、上映後多くの子どもたちが、熱心にアンケートを書いてくれた。

おみやげの琉子の菓を大切に持ち帰る子ども、感動で涙を流す大人に、実行委員たちは、もう次の上映会に思いをはせた。

(稲継)

また二つ 九条の会が誕生

社交ダンス九条の会

2011年2月22日、東久留米の社交ダンスをしている仲間で「東久留米・社交ダン

ス・九条の会」(世話人代表・米田和子)を立ち上げました。

私たちは毎日のように社交ダンスの練習をして、社交ダンスパーティではワルツ、タンゴ、ルンバ、チャチャチャなどを踊って人生を楽しんでいます。こうして、社交ダンスを楽しむことができるのも、日本が平和であり、戦争放棄をうたった憲法九条があるからです。この憲法九条を大切にしたい、いつまでも守っていききたい、そんな気持ちを持った世話人が多くのダンス愛好家に賛同を呼びかけることにしました。全国に7500以上あるという九条を守る会ですが、社交ダンス関連では私たちがはじめての会の立ち上げだということです。私たちの宝「憲法九条」を守る「国民の過半数結集」に寄与したいと思います。

(西垣内)

『平和を考える本』

『サラの鍵』

タチアナ・ド・ロネ著(新潮社)



一九四二年七月。ナチス占領下のパリで、フランス警察は一万を越えるユダヤ人を一斉検挙した。連行直前、十歳の少女サラは弟を納戸に隠して鍵をかけ、約束した。「あとで戻ってきて、絶対に出してあげるから」と。

それから六十年後、結婚してパリに住むアメリカ人ジャーナリストは、戦時下、この街で起こったユダヤ人迫害事件を取材することになった。サラの弟や、収容所から逃れたと聞くサラの行方を追う中で、現在と過去が交差し、今生きている人々の心と生活を蝕みはじめた……。

映画化され、二十三回東京国際映画祭で観客賞を受賞する。

9条・青年 レポート

若者が思う 戦争と平和

二ノ宮 波子

例 えば、戦争はなぜ悪いのですか？と問われたら私は「戦争は人の幸せを奪うから悪い」と答えます。2500年前の中国の思想家老子は「自分がやられて

嫌なことは、人にするな」と言っています。まさにその通りだと思えます。私は幸運にも戦争を体験したことがありません。私の中の戦争は人から聞いたたり、本で読んだり、テレビで見たりして想像したものにはすぎませんから、はつきり言っ

てその怖さや悲惨さが実感できません。しかし、人の幸せを奪ってまですることになんの意味があるのでしょうか。

ではないのが当たり前」を認めたくない、わからないから人は争い、戦ってしま

こ の質問に皆さんならどう答えるでしょうか。人によってさまざまだと思います。それぞれの生きてきた環境があり、価値観があり、願いがあ

うのではないのでしょうか。悲しいことに人間には自分と似ている物事に安心を覚え、違う物事を排除しようとする性質があるそうです。では、全人類の意識を統一すればよいと考えるかもし

い易いと思えます。

あ る人は言います。人類の文明は他者と戦うことで進化する、と。確かにこれは否定できない事実でしょう。ファスナー、電子レンジ、レトルト食品、携帯電話、カーナビ

